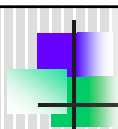




「Mash up Award 2nd」のご報告

2007 / 5 / 14

株式会社リクルート
メディアテクノロジーラボ
八木 一平



自己紹介



- 八木 一平(やぎ いっぺい)
- (株)リクルート メディアテクノロジーラボ所属
 - 04年4月 リクルート入社(入社4年目、28歳)
 - 04年4月 海外旅行サイトAB-ROADの開発マネジメントを担当
 - 06年4月 FIT企画室「B!コロボ委員会」メンバーを兼務
 - 07年4月 メディアテクノロジーラボへ異動

よろしくお願いたします

本日のプレゼンの前提



- マッシュアップとは
 - 元々は音楽用語。DJが複数の曲を混ぜて新しい曲を作り出すことを「マッシュアップ」と呼んでいた。
 - それが転じて、インターネットの世界で複数のWEBサービスやコンテンツを組合せて、サクッと新たなサービスを作り出すことを「マッシュアップ」と呼ぶようになった。
- WEBサービスとは
 - 他のシステムの機能やデータを、手軽に別のシステムから利用することができる仕組み。それを実現するための手段が「API」と呼ばれるシステム間インターフェース。

例) Google Mapsの地図を自サイトに表示する。
"Google Maps API"を使って、自分のサイトに組み込む。

Mash up Awardとは



- サン・マイクロシステムズ、リクルートおよび協力企業・団体が提供するWebサービスや開発ツールを利用して、他のコンテンツやWebサービスとマッシュアップした情報サービス作品を競う、日本初のWebサービス利用コンテスト。
- 第一回: Sun × Recruit Mash up Award
 - 実施期間: 2006/6/5 ~ 2006/7/31
 - 応募作品数: 56作品
 - サン・リクルートのみで開催
- 第二回: Mash up Award 2nd
 - 実施期間: 2007/1/23 ~ 2007/3/12
 - 応募作品数: 108作品
 - サン・リクルートに加え、17法人が協力
- URL
 - <http://jp.sun.com/mashupaward/>
 - <http://www.recruit.jp/mashup2006/>
 - <http://bic.recruit.co.jp/mashupaward/>

第一回最優秀作品「みんなの水遊びMAP」



協力企業・団体一覧



XML Consortium

- イースト株式会社
- 株式会社WEB2.0
- 株式会社NTTデータ
- 株式会社カヤック
- 株式会社きざしカンパニー
- グリー株式会社
- GMOアドネットワークス株式会社
- 株式会社Jストリーム
- シックス・アパート株式会社
- Skype Technologies
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所
- チームラボ株式会社
- 株式会社テクノラティジャパン
- 株式会社ドリコムジェネレーティッドメディア
- 富士ゼロックス株式会社
- 有限責任中間法人 Mozilla Japan

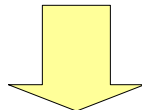


リクルートがWebサービスを公開した理由



XML Consortium

- リクルートは「クライアントから広告掲載料を頂き、それをユーザが見る、というアクション(反響)をお返す」というモデルの事業を多数運営している
- クライアント視点・ユーザー視点ともに、情報提供/アクション(反響)はリクルートの媒体経由でなくてもよく、多くのメディアで、リクルートの情報が一般生活者の目に触れ、目的の情報にたどり着けることが必要。
- そのための手段として、Webサービスを利用



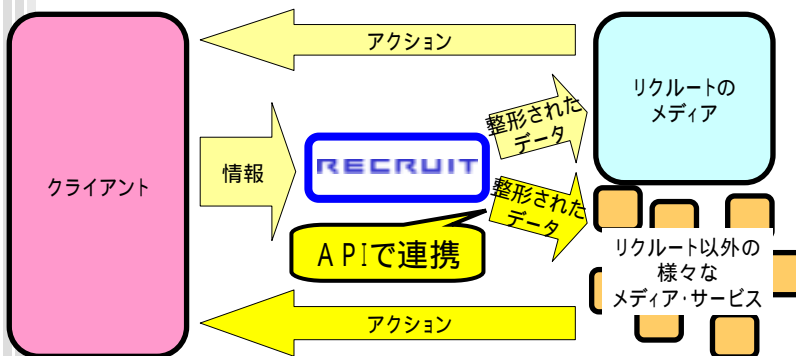
2007年5月現在、5つのWebサービスを提供



リクルートにとってのマッシュアップ



- リクルートは、自身のメディアを運営しつつ、他メディア・サービスに対してはWEBサービスを利用したデータプロバイダとしても機能していく。



このコンテストを実施した理由



- リクルートだけでなく、色々な方々のアイデアで、リクルートの持つDBの情報価値をさらに引き出して頂くため
- リクルートのWebサービスのプロモーションを行うため
- Webサービス利用者(開発者)とのリレーションを築くため



アワード受賞者の皆様



受賞作品のご紹介
最優秀賞「出張JAWS」 by 黒田哲司氏



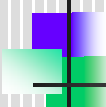
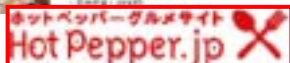
XML Consortium



ビジネスパーソンの出張準備を
ワンストップで支援するサービス。
Ajaxを使った実用的なUIで
「出張計画書の印刷」までできる
実利用に耐えうる
クオリティのサービス。

作者は地方公務員。出張が多く、
出張手続きに手間がかかるため
自分でこのサービスを作った。

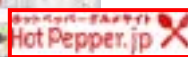
プログラマーではない一般人でも
サービスを作れる時代が到来？



受賞作品のご紹介
優秀賞「doodle」 by (株)ゴーガ



Consortium

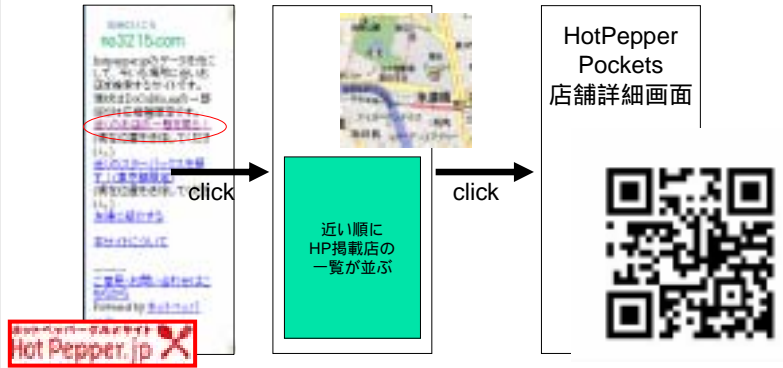


「いま、ここ」=「時間軸」×「場所軸」を軸に、
ユーザーがPC / 携帯でコミュニケーションできるサービス。

受賞作品のご紹介
特別賞「no3215.com」 by 橋本弘太郎氏



Consortium



最短2クリックで最寄の飲食店を探せる携帯向けサービス。
二次会のお店を探すときや、急に飲むことになったとき等、
利用シーンが明確に想像できる。作者は大学生。

受賞作品のご紹介
NTTデータ賞「子育てMAP」 by convivial-web



Consortium

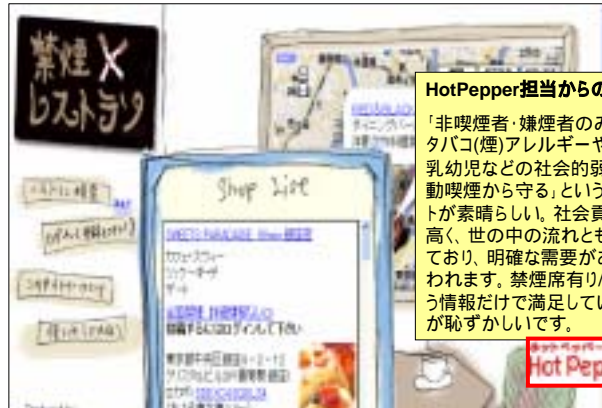


育児施設・公園・病院・子供と行ける飲食店など、
子供連れの親御さんにとって嬉しい情報を地図から探せる。
第一回に続き連続受賞。前回の「家すぐMAP」も力作。

受賞作品のご紹介 ホットペッパー賞「禁煙レストラン」
by 上田直生氏 × 大塚恒平氏



Consortium



HotPepper担当からのコメント

「非喫煙者・嫌煙者のみならず、タバコ(煙)アレルギーや妊婦、乳幼児などの社会的弱者を自動喫煙から守る」というコンセプトが素晴らしい。社会貢献度も高く、世の中の流れとも合致しており、明確な需要があると思われ。禁煙席有り/無しという情報だけで満足していたことが恥ずかしいです。

非喫煙者にとっての飲食店の快適度を投稿・共有するサイト。
HotPepperの飲食店データに補足情報として口コミを紐付け
リクルートの情報を独自の切り口でうまく活用している。

受賞作品のご紹介
特別賞「Mashup Freak!」 by TEDDY-G



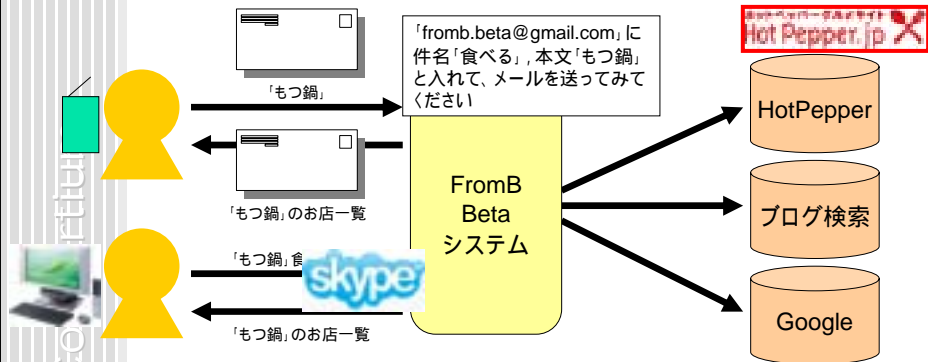
Consortium



ユーザーが自らマッシュアップ・サービスを作ることができる。
CGMならぬ「Consumer Generated Service」が。
作者はプログラマーではなく、商社マン。

受賞作品のご紹介

最優秀賞「FromB beta」 by 株式会社内田洋行 次世代ソリューション開発センター



ブラウザではなく、メールやメッセージを使って
検索するサービス。特に携帯向けサービスでは、
メールや音声等ブラウザ以外のインターフェイスにも注目すべき。

受賞作品のご紹介

特別賞「wordarium」 by team37



よく検索されるワードや関連語を、水槽の中で泳ぐ魚に
見立てた、UIに工夫を凝らしたメディアアートの作品。
APIによってデータとUIが切り離され、UIの自由度が拡大した。

- 前回のアワードに比べて、完成度の高い作品が増えた。また、前回は地図に情報を載せた単純なマッシュアップが多かったが、今回はその割合が下がり、下記の傾向の作品が増加した。
 - 携帯電話、ゲーム端末などパソコン以外のデバイスに対応した作品
 - 情報の関係性・構造を視覚的ユーザーインターフェースで表現する作品
 - GPSやPlaceEngineを利用した、現在地を軸にした作品
 - フロー型のデータをストックし、時系列で提示した作品
 - ブログやSNS、動画共有サイトのAPIとマッシュアップした作品

ここでご紹介した作品以外にも
Salesforceとの連携サービスや、音声認識を活用したサービスなど
様々なサービスが受賞しています。受賞作品一覧はこちらからご覧下さい。
<http://bic.recruit.co.jp/mashupaward/results.html>

メディア・ブロガーの反応



- @ITなどで特集記事掲載。cnet、Itmediaでも記事掲載。BlogTV(東京MXTV)でも放映。
- 技術評論社、日経BP社などのIT系雑誌でもピックアップ検討中。
- はてなブックマークで、アワード関連のエントリ・記事が合計800強のブックマークを獲得。
- 100以上のブログで話題となった。
- 3/22には、テクノラティ(ブログ検索エンジン)で「今、最も検索されているワード」1位を獲得。

マッシュアップって？

マッシュアップ。

[Mash Up Award 2nd](#)の結果がでています。

マッシュアップって何？ってのを知らなければ、このサイトすごいなあ！！ってだけで終わってしまうんでしょけど…

マッシュアップにより短期でかつ正確なものが作成できると思ってます。
ただAPIを公開する側がどこまで公開しているか？
急に公開を取りやめたり、勝手にわけのわからんバージョンアップをした人はいか？
また、急に会社が潰れてAPI自体がなくならないか？
そのようなリスクは作成する会社にとって把握しきれぬものではありません。
製品として開発する際にはそれらのリスクも取り込むこと自体は認識しておきたいものです。

雑感

- 技術よりも、アイデアや完成度の重要性が増しつつある
 - コンテスト入賞者には、職業的プログラマーでない方が目立った
 - APIの利用、ライブラリや軽量言語での開発ノウハウの普及、インフラの低廉化により、システム開発のハードルが下がっている
- マッシュアップ・サービスには、その稼働率は、各APIの稼働率を掛けあわせたものとなるというリスクあり
 - 利用APIのうち一つがこけると、サービス全体に影響が出る
 - 例：稼働率99%のAPIを5つマッシュアップすると、そのサービスの稼働率は99%の5乗 = 95%となってしまう
 - 安定したAPIを選別・利用することが重要
- マッシュアップ・シーンの更なる発展にむけて、今年夏をターゲットに、次回アワードも企画中です！
 - より多くの方々にご参加いただけるよう、対象リソースや対象領域などの拡大を検討中